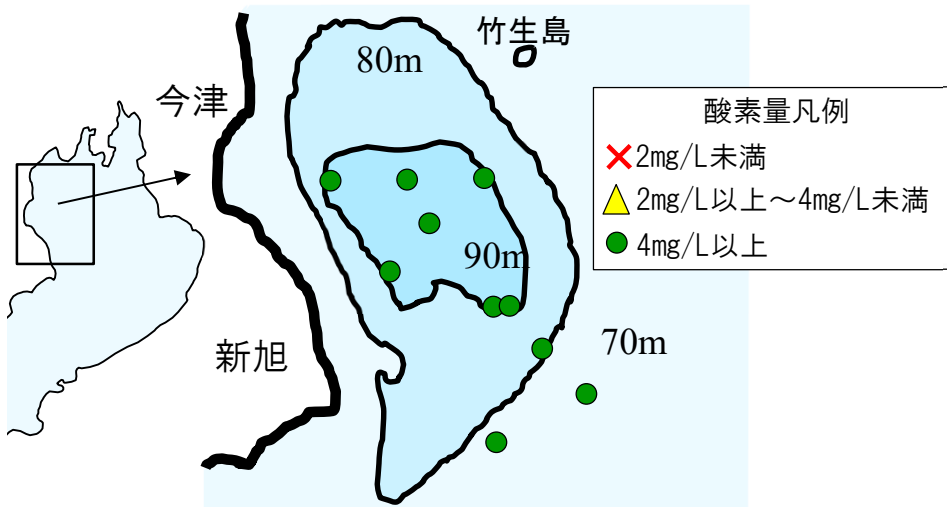


# 北湖沖合湖底の酸素量とスジエビ等の生息状況(終報)

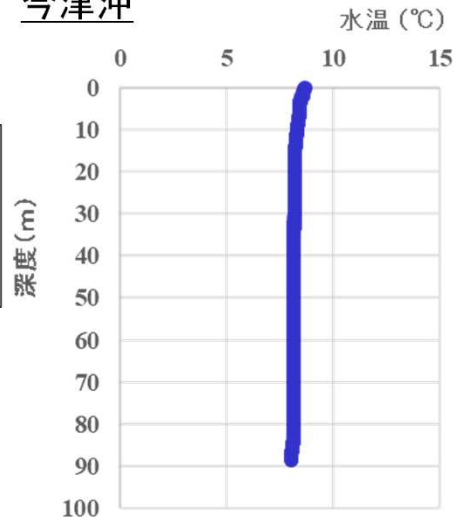
2024年3月21日  
滋賀県水産試験場

琵琶湖沖合の底層では、秋から冬にかけて酸素量が低下し、2mg/Lを下回るとスジエビなど魚介類の生存や分布に影響を与えることがあります。  
そこで、水産試験場や琵琶湖環境科学研究センターが実施した酸素量やスジエビ等の生息状況に関する調査結果をお伝えしますので、操業の参考にしてください。  
なお、全層循環が確認されたため、今シーズンはこれで終報となります。

## ○湖底等の酸素量(2024年3月11日～15日時点)

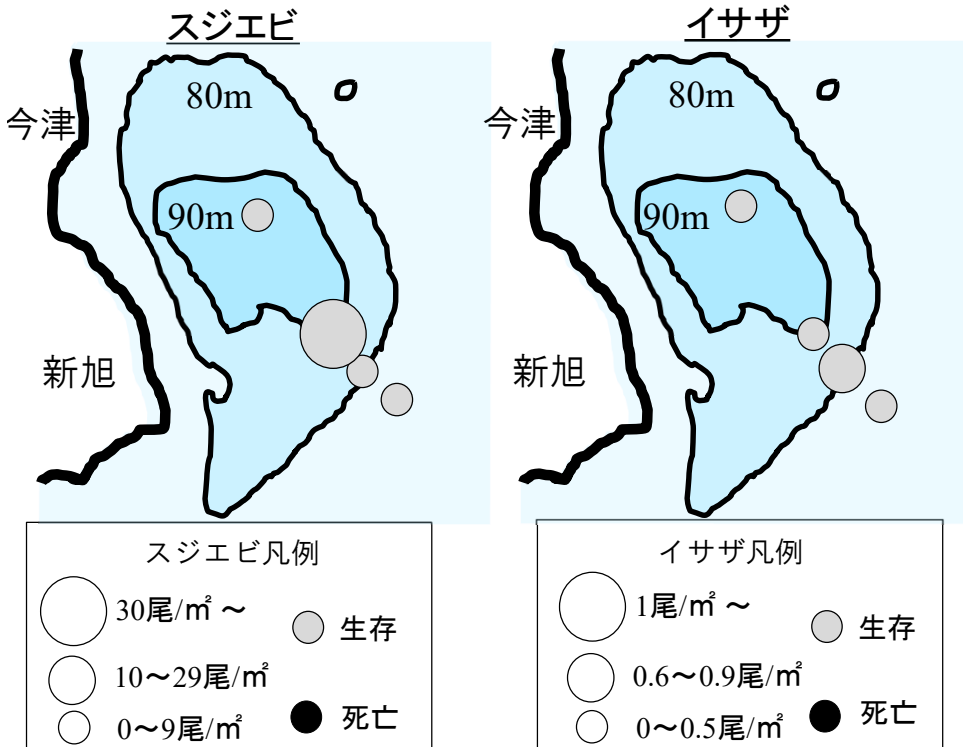


## 今津沖



・水深90m水域の湖底直上1mの酸素量は全地点で10mg/L以上となり、全層循環が確認されました。

## ○スジエビ等の生息状況(2024年3月15日時点)



・スジエビの死亡個体はなく、新旭沖90mでの生存個体の密度は43.5尾/m<sup>2</sup>でした。

・イサザの死亡個体はなく、新旭沖80mでの生存個体の密度は0.6尾/m<sup>2</sup>でした。